

令和元年度 南アルプス市立若草南小学校 後期自己評価書

南アルプス市立若草南小学校
校長 河野 瑞穂

学校教育目標

「学びを深め、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、深く考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔目指す学校像〕 学び合い 高め合い 信頼し合う 地域と共にある学校 笑顔あふれる学校

〔育てたい児童像〕 ふるさとを愛する児童の育成 人の痛みがわかる学校 < 若南プライド >

〔若南プライド〕

地域の歴史・伝統・文化に気づき、自ら学び、体験する中で 地域に誇りを持ち、自尊心を高める積極的な活動に取り組む精神を醸成する。

〔学校経営の重点〕

1 「自ら学び 深く考える子ども」の育成を図る。

(教師集団による組織的・計画的な研究からの授業実践を展開する。)

- (1) 基礎的・基本的事項をしっかり教え、確実な定着を図る。(反復繰り返し、定着化を図る)
- (2) 学習スタンダードに基づいた授業を実践する。
(若南スタンダード、やまなしスタンダードの定着化)
- (3) 知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を高めるためのコミュニケーション能力の進展を図る。
(協働的学習体制の充実、外国語教育の充実)
- (4) 体験的活動や地域教材・地域の人材活用、ICTの利活用など積極的に取り入れ授業の活性化に努める。
(体験的活動、地域教材・人材の活用、ICTの利活用)
- (5) 学習規律の確立を図る。(学習用具の準備、ノートの取り方、授業終始時の挨拶)
- (6) 家庭との連携・協力を図り、確かな学力の定着化をめざす。
(宿題・自主課題の定着化、習慣化)

2 「豊かな心で 思いやりのある子ども」の育成を図る。

- (1) 共感的理解に努め、心が通い合う教育を推進する。
- (2) 自尊感情の育成を図る。(教育活動全体を通して、「自分を大切に思う心」の育成)
- (3) 学校教育全体を通して道徳教育をめざす。(考え議論する道徳 道徳教育の日常化)

- (4) より良い人間関係を築き、充実した学校生活を実現するための集団活動に取り組む。
(児童会活動、たてわり班活動の積極的な取組 自治的活動の醸成)
- (5) 読書活動・音楽活動を通して、豊かな情操・感性の育成を図る。
- (6) 豊かな人間性を育むため、充実した体験的活動に取り組む。
- (7) 礼儀正しい、規律ある学校をつくる。
・場に応じた言葉使いができる。(丁寧な言葉遣い・きれいな日本語)
・基本的生活習慣の徹底を図る。(あいさつ・返事・靴そろえ・イス入れなど)
- (8) 美しい環境づくりに心がける。(無言清掃(黙働清掃))
- (9) 人間尊重の精神、社会生活上のルールなどの倫理観、夢や生きがい感の醸成を図る。
(まごころと思いやりの心 キャリア教育の充実)

3 「体をきたえ 最後までやりぬく子ども」の育成を図る。

- (1) 教育活動全体を通して、学校安全について実践的な指導を行い、日常の実践化を図る。
- (2) 給食の時間を中心に食育の充実に努める。
- (3) 粘り強く最後までやり抜く強い意志をもった心身共に健康な児童の育成を目指す。
- (4) 体力向上に向けて、充実した体育の時間・遊びの時間の確保、スポーツの奨励など積極的に推進する。(運動の日常化)

4 特別支援教育(特別支援学級・通級指導教室)の充実に努める。

- (1) 交流学級・在籍学級の担任、保護者・関係諸機関との連携を図り、指導の充実に努める。
- (2) 一人ひとりのニーズに応じた適時・適切な指導・教育相談に努め、また、地域における児童の教育に関するセンター的な役割が果たせるように努める。
(サポートルームわかくさ)
- (3) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、その活用を図る。

5 連携・協働し、支え合う教職員組織をつくる。

- (1) 全教職員の総力・創意を出し合い、連携・協働し、支え合う教職員組織をつくる。
- (2) 教育公務員としての自覚を持ち、厳正な服務規律の確保に努める。
- (3) 保護者や地域との連携・協力を大切にした教育活動を進める。(説明責任を意識した教育活動)

6 家庭や地域との連携の中で開かれた学校づくりを推進する。

- (1) 保護者や地域住民と連携・協力した教育活動を展開する。(連携・協力体制の確立)
- (2) 地域の一員としての自覚や地域を大切に思い、地域を誇れる心を醸成するための手立てとして地域の教材化と地域人材の活用、地域活動への積極的な参加を推進する。
(地域・地域人材の活用と地域行事への参加・地域貢献)
- (3) 積極的な情報発信に努める。(開かれた情報公開)

【評価方法】

児童、教職員に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対しての回答選択肢は4段階になっている。

A：そう思う

B：ほぼそう思う

C：あまりそう思わない

D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
- 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

1 第2回児童アンケート・保護者アンケートの考察

【児童アンケート】

1学期と比較し、差が見られた項目

質問内容	1学期の肯定的な回答	2学期の肯定的な回答	差
1 学校へ行くことが楽しい	94.2%	91.9%	-2.3%
6 進んで発表する	94.6%	81.8%	-13.2%
7 宿題・自主学習	77.2%	80.8%	+3.6%
8 困った時誰かに相談する	83.0%	87.3%	+4.3%

児童アンケートの結果で、6については大きな差が見られた。他の項目はほぼ1学期と同様な数値であった。7については改善が見られた。

【保護者アンケート】

否定的な回答が多かった項目

質問内容	肯定的な回答	否定的な回答	
3 あいさつをしている	83.3%	16.7%	
4 家庭学習の習慣	77.1%	22.9%	

保護者アンケートの結果は、10項目のうちすべての項目で肯定的な回答が80%を超えており、概ね満足できる結果であった。

児童1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校へ行くことが楽しい」については、すべての児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図ってきたが、8.1%の児童が否定的な回答をしている。肯定的な数値は2.3%下がってしまった。現状に満足せず、一人ひとりの児童を大切にしていける教育をこれからも継続していきたい。

児童 6 の項目「授業中に質問または意見を言いますか」について

発言をすることに対して、児童の肯定的な回答は 94.6%から 81.8%と 1 学期より 13.2%低い結果であった。自分の考えを伝え合う学習を取り入れ、授業方法を工夫してきたが大きな成果が得られなかった。高学年になるほど否定的な回答が増えていくことが本校の課題の一つであり、今後も継続して発表する力を育成していきたい。校内研究会においても全職員で共通の課題としてとらえ授業改善に取り組んでいきたい。

児童 7 の項目「家庭で宿題や自主学習を自分から進んでしていますか」について

肯定的評価が 77.2%から 80.8%と 3.6%あがった。家庭学習取り組み週間や学びノートなどの活用を図り、家庭学習は改善している。しかし「そう思う」は 52.6%から 47.1%と 5.5%低い結果となった。特に「そう思う」の割合下がってしまったことは、大きな反省材料である。各クラスごとに分析を行い、学年ごとに改善策を考えていきたい。結果をもとにまとめの学期である 3 学期の取り組みを進めていく。

児童 8 の項目「困った時誰かに相談する」について

肯定的評価は 87.3%と前期より 4.3%向上した。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。誰にも相談できない児童がいることのないように、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

保護者 3 の項目「きちんとあいさつしている」について

児童アンケートでは 90%以上の児童が、学校や地域において挨拶をしていると回答している。しかし、保護者アンケートでは「そう思う」が 31.0%、否定的な回答が 16.7%と児童との結果に開きがある。不審者対策もあり、見知らぬ人への関わりを持つことに抵抗があることも事実であるが、今後も保護者や地域と一体となってあいさつ運動への取り組みを続けていきたい。

保護者 4 の項目「家庭学習の習慣が身についている」について

児童アンケートでは、肯定的回答が 80.8%であるが、保護者アンケートでは 77.1%となっている。「そう思う」は 31.7%ととても低い。否定的な回答 22.9%あり、家庭学習は保護者にとって大きな課題となっていることがわかる。学校と保護者との情報交換や、協力・協働がより一層求められる。家庭学習取り組み週間など、より一層連携を深めた取り組みを進めたい。

2 第 2 回職員アンケートの考察

【全体的な傾向】

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

I 学校生活についての質問

「子どもたちが、楽しく学校生活を送れる」については、「そう思う」の割合が 65.4%から 80.8%に上がった。学校行事や日常の学年・学級の取り組みを児童とともに創り上げてきた成果が表れたと感じる。マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、すべての児童がプラス評価になれるよう努めていきたい。

II 学習指導についての質問

「児童を授業に集中させるための指導」では、「そう思う」の割合が「84.0%」であった。分かる授業の展開と児童の学力向上は、学校に課せられた最も大切な課題の一つである。学校の授業が分かりますかについて否定的な回答をした 5.8%の児童にしっかりと目を向け、校内で共通理解を計り、一人一人の授業改善を進めていきたい。

III 家庭学習についての質問

「家庭学習を定着させるための工夫」では、「そう思う」は 45.8%であり、マイナス評価は「4.2%」であった。児童の評価も大きな課題がみられている。家庭学習強化週間の取り組みなど、保護者への協力は必要不可欠である。全校や学年・学級での取り組みをさらに進め、家庭学習の定着を進めていきたい。

IV 生徒指導についての質問

学校として取り組まなければならない課題も見られた。保護者への説明や指導を行う案件もあり、その都度校長を中心とし組織として対応してきた。早期発見・早期対応に努め、これからも報告・連絡・相談を密に行い、管理職・生指担当・コーディネーター等を中心とし、チーム若南として対応にあたっていきたい。

V 学校経営についての質問

1学期の教育活動をふり返り、いくつかの面では分掌の偏りはあるものの若草南小学校の学校運営は概ね満足できる教育内容であったと思う。これからも、縦と横の連携を十分に図り若草南小児童の健全育成のために、一致団結して教育活動に取り組んでいきたい

VI 学校行事についての質問

保護者アンケートでは、授業参観や学校開放日など子どもの様子を見る機会についてとても良い評価を得ている。児童の生き生きとした姿をみることで保護者に直接理解していただけている。行事については、日程調整から計画・立案と各担当や教務主任との連絡調整が重要である。行事の目的をしっかりと見据え、無理のない計画の中で取り組んでいきたい。

VII 校内研究についての質問

教育委員会や教育センターの指導・協力の下で「ICT教育」を進めてきた。時代の流れの中で、児童に身に付けさせていきたい重要な力の一つである。私たち教師に課せられた大きな課題でもある。研究主任を中心に、これからも学び続ける教員として精進していきたい。

VIII 施設・設備・安全管理についての質問

安全点検の項目では、後期はマイナス評価がなくなった。安全点検や定期的な避難訓練・安全教育を通し、日頃から防犯・防災の意識を高める児童指導が行えた。昨今の報道等で見られる凶悪犯罪や交通事情は、いつどの地域で起きても不思議ではない。また南海トラフによる大災害も想定されている。保護者や地域住民の協力も欠かせない。見守りたすきの普及や小中連携なども含めて、地域で児童を見守る学校づくりを進めていきたい。

IX 学校と家庭との連携についての質問

学校と保護者が共通理解を計り、同じ歩調で進むことが望まれる。その意味では、先生方が保護者との信頼関係を築き活動できたことは高く評価できる。さらに管理職との細かな報告・連絡・相談が行えており、組織としての対応がしっかりと行えた。

3 まとめ

アンケート調査の結果を見ると、児童・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

しかし、マイナス評価が大きい割合になっているいくつかの項目や、日ごろの教育活動から感じられることから、課題となっていることがある。それらをまとめると、次のようなことになる。

【学校生活について】

○児童及び保護者アンケートともに学校が楽しいという回答が90%を超えている。日常の学級活動や学校行事の充実が考えられる。運動会や音楽会、学年での親子レクリエーションなど保護者や地域と一体となった活動が評価を得たと思う。これからも一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、児童の活動を見守っていきたい。

【学習について】

○児童の授業が分かるや保護者の基礎基本の定着についての項目は、高い評価が得られた。一人ひとりの職員の日々の授業改善が成果を上げている。道徳・外国語活動の教科化やR2年度からはプログラミング教育など新しい教育が始まる。教師自身も学び続ける姿勢を持ち教育技術を向上させていきたい。発言または意見を言うこととあわせて友だちの意見をしっかりと聞き学び合うことは、学力を向上させる上でも大切なことである。また、安心して発表がおこなえる雰囲気のある学級をつくっていくことは、互いを認め合うことにもなり、いじめのない学級づくりにも通じている。校内研究会の充実とともにさらに授業改善を図っていきたい。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習は大切な役割がある。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。日々の取り組みや、家庭学習の内容や方法を工夫し、家庭学習を充実させていきたい。学校の取り組みだけでなく、保護者の理解を深め今まで以上に協力を求めていきたい。

【生徒指導について】

○困ったときに相談する友達がいることは、いじめの未然防止や早期発見に大きな役割を果たす。また、保護者からの情報提供も大きな役割を果たす。さらに、学校のきまりや約束を守ることの指導は、いじめや非行行動に対する未然防止につながっていくと考える。児童会や学級会のきまりなど、

児童は学校生活の中でさまざまなきまりを守りながら社会性を身につけている。すべての教育活動を通して、困ったときには誰かに相談すること、きまりや約束を守ることの大切さについてより一層重点をおき指導にあたりたい。また学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で教育活動を進めていきたい。

3 まとめ

重点項目の考察

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような『居心地のよい学校づくり』を進める。

- ・児童会主催の行事や縦割り班活動、委員会の集会や取組など、6年生を中心にとっても充実した内容の活動ができた。学校行事においても保護者や地域の協力を得る中で、実り多い活動が展開された。また各学年、学級における取組も一人ひとりの児童を大切にされた内容で実施され、そのことが児童にとって楽しい学校につながっていった。
- ・マイナス傾向の児童にしっかりと目を向け、活動の振り返りを行っていくことに努力してきた。しかし、「学校へ行くことが楽しい」については児童・保護者とも否定的回答が数%存在している。この結果については謙虚に受け止め、今後も継続して一人ひとりの児童をしっかりと見ていきたい

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、『学び合う環境づくり』に努める。

- ・「主体的・対話的で深い学び」についてさらなる授業改善を図りたい。若南スタンダードについては、各クラスの中で定着が図られている。これからも授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れていくことに取り組んでいきたい。
- ・個に対応することは、とても重要な課題であり同時に難しい課題でもある。ティームティーティング（複数教員による授業）や教育ボランティアの活用を今まで以上に十実させ、一人ひとりに分かつ授業の実現に向け、より一層の学び合う環境づくりを進めていく。

○『家庭学習』を充実させる。

- ・「家庭学習」については、保護者の課題が見られた。学校と保護者との情報交換や家庭での協力・協働についてさらに連携を深めていきたい。
- ・今後も家庭学習取り組み週間を設けさらなる家庭学習の充実を図っていく。

○『いじめは絶対に許さない』という毅然とした態度で指導にあたる。

- ・保護者アンケートからは、学校のいじめのない学級づくりに対し94.4%の肯定的回答を得られた。小さな事案に対しても一つ一つ丁寧に取り組んできた結果と言える。これからもいじめのない学校づくりに取り組んでいきたい。